

## 建設界における担い手に関する指標について

担い手に関する状況を調査するうえで、以下の指標を考えており、既に情報提供頂いたデータに基づき分析を進めておりますが、条件の違い等により正確な分析ができていないのが現状です。引き続き、分析等を進めたく、ご協力をお願い致します。

### ①求人倍率の推移について（各県労働局）

- ・ 建設業界における新卒者の需要供給バランス示す指標を検討中。
- ・ 公表されている有効求人倍率等のデータには、新卒者（特に大卒、高専）が含まれていない場合があるなど、新卒求人（特に大学、高専）の需要供給の動向をどの様に分析するか整理中。

### ②入職率・離職率の推移について（各県労働局、各県統計部局）

- ・ 新卒者のうち、建設界への入職と離職（数年以内）の状況を示す指標を検討中。
- ・ 県別や職種別（建設業他）による分析を進めているが、条件の違いや異常値と思われるデータの取扱などについて整理中。

### ③建設系学生数等の推移について（各県教育機関）

- ・ 各県によって対象とする学校や学科の条件が異なるなどの違いがあり、データ整理中。

## 【石川県測量設計業協会】

### ■ 県産連雇用状況等アンケート調査

調査日 H26.8.19 石川県測量設計業協会

1. 貴組合(団体)の組合員(会員)数についてお聞きします。

(1) 貴組合(団体)の組合員(会員)数について教えてください。

1,211名 (45社)

2. 貴組合(団体)の技術者の充足状況についてお聞きします。

(技術者:設計・測量技術者)

(1) 貴組合(団体)における技術者の正社員数(非正規の常用雇用含む)を教えてください。

技術者 825 名

(2) 上記の正社員数(非正規の常用雇用含む)は足りていますか。

① 足りている

② ギリギリ足りている

③ やや不足している

④ 不足している

③ やや不足している

50%

### ■ 若手測量技術者の求人倍率 10倍

アイサンテクノロジー(株)様のHPより

図1は、測量専門学校生徒数の減少を示し、最高時の15%程度にまでなっていました。この図の右肩下がりだけを見ると、将来性は明るくありません。ところが、測量専門学校関係者の話によりますと、最近の東京地域では求人倍率が10倍程度にもなっているそうです。地方でも3倍程度の求人倍率のようです。

最近の測量業界が、若手の技術者を受け入れたい希望があります。しかし、生徒が減少しすぎて、需要に追いつかなくなってしまったようです。測量専門学校も新しい時代の教育を行うことによって、生徒数を増やし、業界の要請に応えられるようにすることが望まれているのではないのでしょうか。

図1. 測量専門学校生徒数の変化

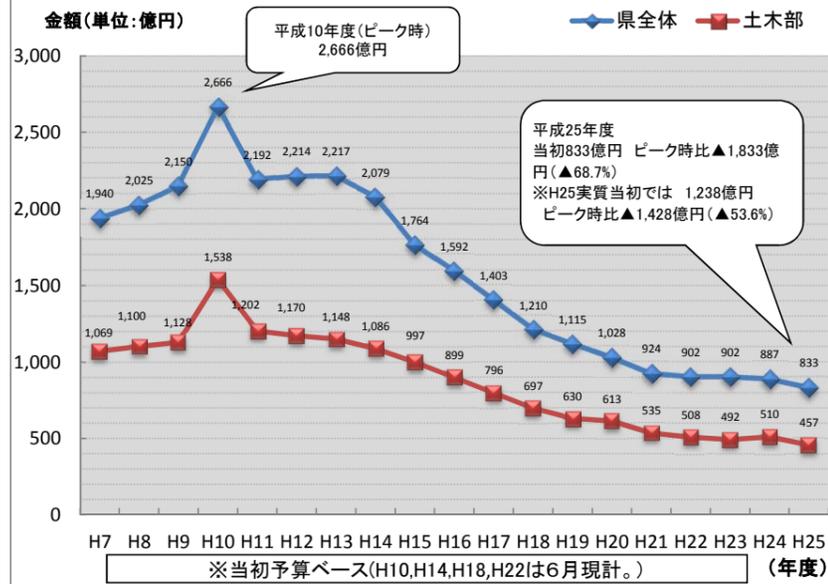


# 建設業を取り巻く現状と課題

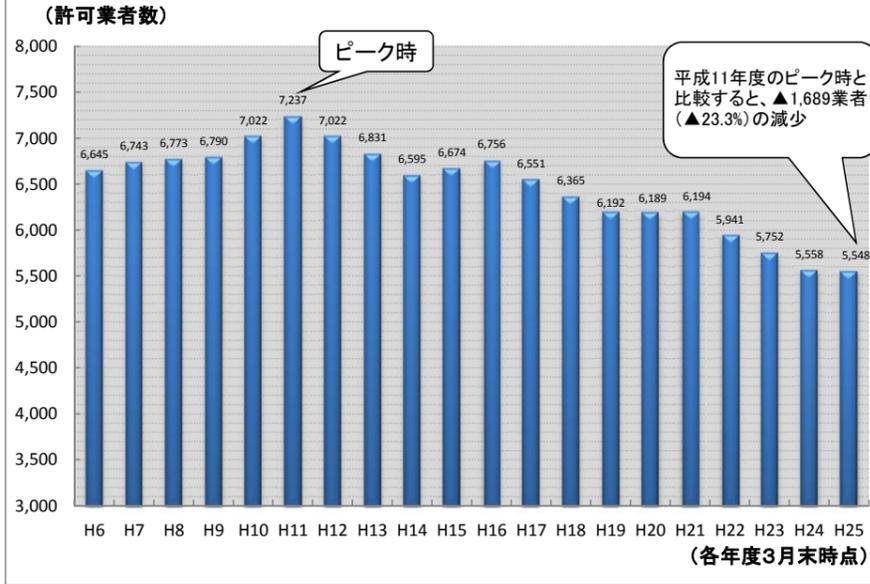
建設業は、県内就業者の約1割を占める基幹産業であり、社会資本整備や維持管理はもとより、災害復旧応急や除雪など、県民の安全・安心を守る大きな役割を担っている。しかしながら、建設業はこれまでの建設投資額の減少等の影響により、新規採用を抑制してきた結果、技能労働者の高齢化や若年入職者の減少が顕著となっている。

◇本県の投資的経費は平成10年、許可業者数は平成11年をピークとして減少傾向が続いているが、ピーク時と比較すると、**建設業許可業者数に比べて投資的経費の減少割合が大きい**ことから、**建設業を取り巻く競争環境は厳しい状況**となっている。また、本県の就業者数のうち建設業の就業者数は製造、卸・小売り、医療・福祉に次ぐ第4位であり、地域の雇用を支える基幹産業であると言える。

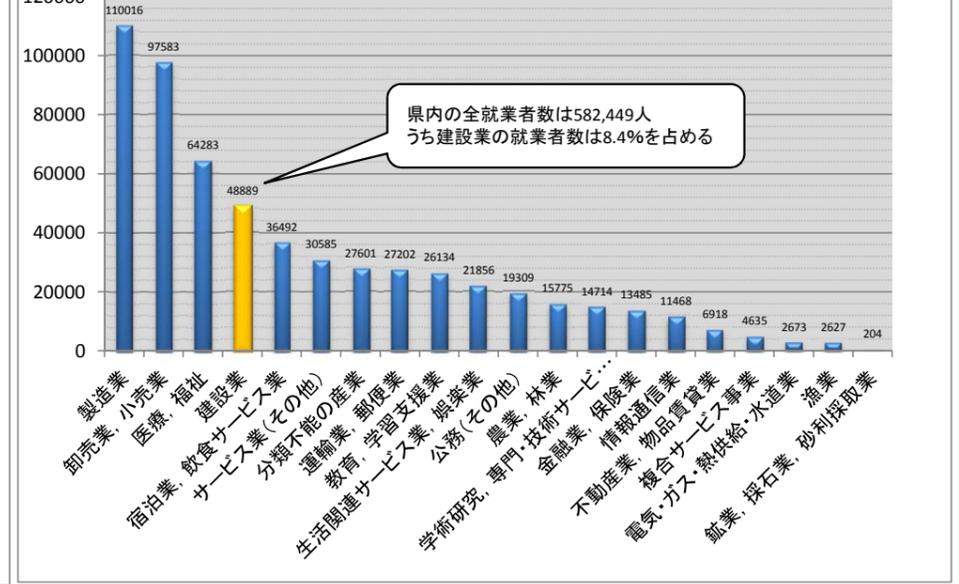
本県の投資的経費(予算)の推移



本県の許可業者数の推移

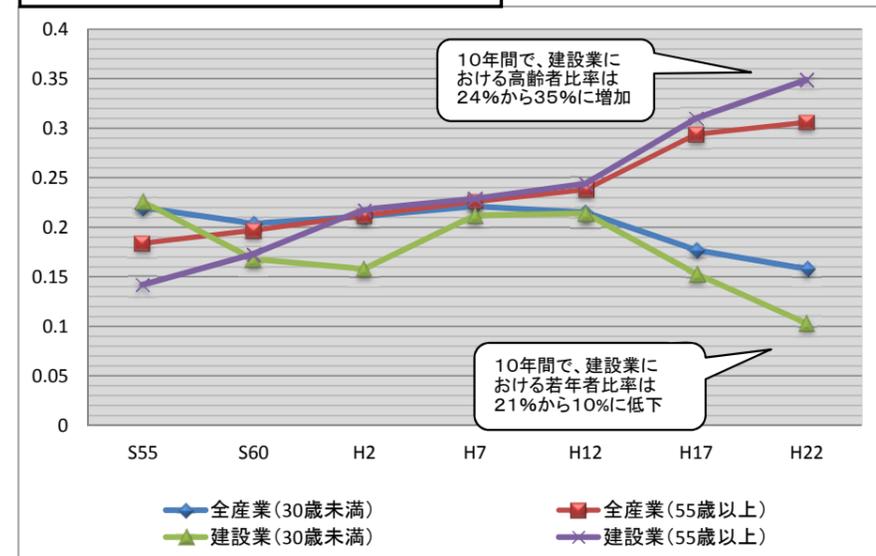


職種別就業者数

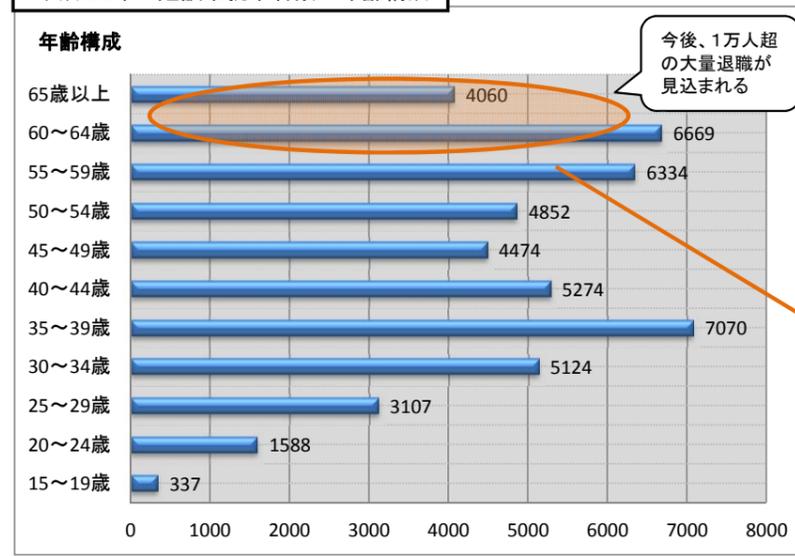


◇建設業就業者数は、55歳以上が34.9%、30歳未満が10.3%と高齢化が進行し、次世代への技術継承が大きな課題といえる。また本県の建設業就業者の年齢構成から、**今後10年間で高齢者の大量退職を迎える**ことが予想され、**建設業の技術・技能の修得には概ね10年程度の期間**がかかると言われており、**若年者の確保が喫緊の課題**となっている。

本県の就業者における若年者及び高齢者の割合



平成22年の建設業就業者数の年齢構成



平成32年の建設業就業者数の年齢構成(予想)

